

文化継承・コミュニティ活性化特別委員会

令和6年11月27日

- 1 これまでの勉強会について
 - (1) 神保町、本のまちの継承
 - (2) 震災101年と桜の継承

- 2 その他

- 3 閉会中の特定事件継続調査事項について

『本の街・神保町の継承』について

—令和5年12月5日の聞き取りをもとに—

講師：八木壮一氏・高山肇氏

【課題把握】

神保町は、明治期より日本を代表する大学や本を愛する人たちの求めに応じて、本の街として発展してきた。大正時代から東京古書会館を拠点に協同組合をつくり、現在でも130ある古書店が専門分野をもって横につながり、紹介しあいながら古書店街を継承している。世界や日本中の問い合わせや古本の需要に応じてきた。千代田区と共催で続ける「古本まつり」も今年で60回を重ねている。

震災も戦災もバブルも乗り越えてきた神保町だが、商業文化を継承するにあたって、以下のような課題が存在する。

1点目、商店街の多くの建物が旧耐震で、建て替え時期を迎え、リノベーションでは対応が困難なもの、10年以内に建て替えを進めなければならないものも少なくない。周辺では、建て替えるごとにマンションやオフィスに代わってしまっているが、「商売は文化」であり、一階部分に関しては、古書店や伝統文化にかかわる商売を継承したい。しかし、採算上の問題がある。共同化する際の問題、たとえば駐車場付置義務によって商店街が軒を連ねることができないという現実や、宅配で届ける時代に駐車場がそれほど必要ではないという現状にも対応できていない。

2点目、15年位前から「神保町を元気にする会」を立ち上げ、本の街神保町の魅力をより多くの方に知ってもらおうと「神保町が好きだ！」を18号までフリーペーパーとして発行し続けている。立ち上げのメンバーは高齢化している。この地域雑誌を続けていくには、たとえばエリアマネジメントのような、安定した仕組みの中で、継承していけないかと考えている。そうした課題を乗り越えて、商店という文化を後世に引き継いでいくための基盤づくりについて、区と区議会が状況を理解して後押しする必要がある。

千代田区と議会は上記の課題を共有すると共に、地域情報を収集し、アイデアを出し合い、必要な制度政策を進める。

当委員会における意見。

①「連なる商店街」が維持発展していくよう、駐車場附置義務の緩和を始めとして、1階に店舗が連なり、業種業態の特色を継承してできる方策について、さらなる取り組みを進める。

②相続、固定資産税負担、建物の老朽化問題について、課題に向き合う。

③小学生・中学生に古書店見学・体験を授業に取り入れ、商業という文化を担う人づくり、事業の継承のきっかけとするよう求める。

④商店街事務局の支援強化、近隣大学との連携、もしくはエリアマネジメントなどのテーブルを強化するなど、地域雑誌の継続等、民間の知的財産を維持していけるよう、千代田区が適切な方法をもって側面から後押しすることを強く求める。

『震災101年・桜の継承』

—令和6年7月3日の聞き取りをもとに—

講師：小藤田正夫氏

・区の花さくら について —昭和59年3月15日制定（一般公募）—

「日本人の心に咲き続けてきたさくらは、山桜・里桜・大島桜・彼岸桜などに大別されますが、栽培種を合わせると、数百種にもものぼると言われています。区内には、いろいろな品種のさくらが植えられていますが、大半が生粋の江戸っ子桜「染井吉野」です。千鳥ヶ淵周辺をはじめとして、多くのさくらが、春には美しい姿で人々の目を楽しませてくれます。」（千代田区ホームページより）

当委員会では、区民が誇りでもある千鳥ヶ淵等お濠をおおう桜の風景が、明治期から昭和にかけて、先人たちが強い思いをもって植樹し、現代の私たちに引き継がれてきたことを学んだ。同時に、江戸っ子桜でもある「染井吉野」が植え替えの時期に来ていることも自覚するところとなった。私たちが未来世代に千代田の桜の風景をつなぐために、以下の通り、行政と協力し桜を新たに植樹していくとともに、未来につなげていきたいと考える。

1) 江戸・明治・大正・昭和へとつないできた、江戸城周辺の桜に関する歴史物語を「地域史」として記録し伝承することの価値を、当委員会として共有する。さらに、長らく千代田区の花でありながら、神田地区に桜の植樹が少ないことを踏まえ、今後どのように植樹し管理していくことが、未来世代に良き風景をつなぐことになるのかについて、全体を見渡した景観デザイン、心地よい空間づくりの中で未来への方針を見出していく必要がある。

当委員会における意見

- ① まちの人の参加・参画のもとに、新たに桜を植えてはどうか。
- ② 「千代田学」と連携して千代田と桜の物語、歴史を掘り起こしてみてもどうか。
- ③ 桜の歴史の映像記録を作ってはどうか。
- ④ 大学との連携で令和の桜を増やして行ってはどうか。
- ⑤ 桜は文学との結びつきが強く、和歌にも読まれているので、大きな桜を植えられるところは、文学との親和性で人を集めてはどうか。
- ⑥ 千鳥ヶ淵の桜は区民が誇る絶景である。戦後に植えたお濠のり面にある桜は、江戸期になかったということから植替えには関係機関との丁寧な協議を要する。樹木医の専門的知見を得て、環境省・文化庁に千代田区民の総意を伝え交渉し、文化財を保護しながら区が計画的に植替えを進めていくことについて、議会として後押しをしていく。
- ⑦ クラウドファンディングやふるさと納税、桜の更新のための財源確保は極めて重要。
- ⑧ 桜のみならず、皇居東御苑など四季折々の草花を楽しめるのが区の魅力でもあり、進めてもらいたい。
- ⑨ まちの記憶保存プレートの活用を進めていきたい。
- ⑩ 飯田橋の日本橋川沿いに300メートル並ぶ桜並木は、千鳥ヶ淵や北の丸などのビッグネームには敵わない。商工振興課と連携し盛り上げたい。

今後、行政と連携し、歩いて楽しい千代田の街、商売繁盛の千代田区を盛り上げるため、できることできないことを精査しながら、進めていきたい。